

## 理学・作業療法士を目指す学生の職業的アイデンティティ形成を 目的とした「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」の取り組み

平瀬 達哉<sup>1</sup>・磯 ふみ子<sup>1</sup>・沖田 実<sup>2</sup>・東 登志夫<sup>2</sup>  
田中 悟郎<sup>2</sup>・井口 茂<sup>1</sup>

**要旨** 文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における長崎大学医学部保健学科の学部教育に対する取り組み「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」について紹介した。チーム医療実践教育プログラムでは、これまで本学科が取り組んできた看護学・理学・作業療法学三専攻での共修科目「統合ケア関連科目群」の一部を、他学部（本学医学科・歯学部・薬学部）や他大学（長崎純心大学）と共修で行うことで、チーム医療を実践できる人材養成の強化を図る取り組みを展開している。臨床実習推進プログラムでは、臨床教授等による実習前講義や臨床実習指導者の実習終了後学内セミナーへの参加などを実施することで臨床実習教育を強化するとともに、教員－臨床実習指導者－学生間の相互連携を図る取り組みを展開している。「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」は、理学・作業療法士を目指す学生の職業的アイデンティティを形成することを教育目標としており、今後は、この点に着目したアウトカムを明確化し、プログラムの効果を検証していく予定である。

保健学研究 29 : 81-86, 2017

**Key Words** : 課題解決型高度医療人材養成プログラム・長崎大学・チーム医療実践教育・臨床実習推進・職業的アイデンティティ

(2016年7月26日受付)  
(2016年8月26日受理)

### I. はじめに

わが国は、急速な少子高齢化の進展及び疾病構造の変化等が進む医療分野の課題先進国であり、これらの諸課題に対応していくことが健康長寿社会の実現に向けて必要不可欠である。文部科学省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業は、わが国が抱える諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成することを目的としている。具体的には、高度な研究教育力・技術力を有する大学が核となって、優れたメディカルスタッフを養成するための教育プログラムを展開する事業である<sup>1)</sup>。

長崎県は、2035年の老人人口割合推計値が全国で5番目に高く、さらに有人離島数が全国第1位であり、地域で高齢者・障害者を包括的にリハビリテーション及びケアするシステムの構築が求められている。また、医療の高度化や専門化が進むにつれ、複数の専門スタッフが組織的に診療に取り組むチーム医療の重要性が高まっている<sup>2)</sup>。併せて、患者のリハビリテーションに対するニーズも医療から保健・福祉の領域まで多様化し、それに対する科学的根拠に基づいた適切な対応が求められている。つまり、このような現状を踏まえると、地域包括ケアシステムの中で活躍でき、チーム医療に貢献できるリ

ハビリテーション専門職の育成と、質の高い指導能力を有する臨床実習指導者の育成が急務といえる。

長崎大学医学部保健学科では、平成26年度に本事業に採択され、「高度リハビリテーション専門職の養成－長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム－」を展開している。具体的には、学部教育としての「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」と、リカレント教育としての「高度リハビリテーション専門職養成プログラム」から構成し、後者は、「臨床指導者養成教育コース」と「地域包括ケア人材養成コース」を配置している。このようなプログラムの展開により、地域包括ケアの中でチームアプローチを実践できる理学・作業療法士の輩出、質の高い臨床実習指導者の輩出、地域包括ケアをマネジメントできる高度な理学・作業療法士の輩出を効果として期待している。

今回は、本学科が展開しているプログラムの概要と、学部教育に対する「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」の内容を紹介し、その進捗状況について報告する。

### II. 「高度リハビリテーション専門職の養成－長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム」の概要

1 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科，長崎大学医学部保健学科保健学実践教育研究センター  
2 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

本プログラムは、平成26年から平成30年までの5か年間で展開する。プログラムの管理・運営は、長崎大学保健学実践教育研究センター（以下、実践センター）が中核となり、長崎大学地域包括ケア教育センターや長崎大学ICT基盤センターと協働して事業を推進している。長崎大学地域包括ケア教育センターとは、学部教育のチーム医療実践教育の運用や地域包括ケア関連施設での実習展開において連携を図り、長崎大学ICT基盤センターとは、e-learning等を用いた遠隔授業システムの開発や運用ならびに教育資料の開発において連携を図っている。また、本学科は長崎地域リハビリテーション広域支援センターの事務局を務めており、長崎県における地域リハビリテーション活動の支援や実践の充実を図る役割を担っている。本プログラムは、理学・作業療法学専攻だけでなく、実践センターとこれらセンターの協働により、学部教育としての「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」と、リカレント教育としての「高度リハビリテーション専門職養成プログラム」を展開している。リカレント教育プログラムにおいては、離島などの遠隔地域からでも受講可能で、今後、全国的に展開・応用できるプログラムとするため、e-learning等を用いた

遠隔授業を実施する。図1に本プログラムの概要を示した。

### Ⅲ. 学部教育「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」の紹介

「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」の教育目標と到達目標は表1に示す通りであり、理学・作業療法士を目指す学生の職業的アイデンティティを形成することを主な目標としている。

#### 1. チーム医療実践教育プログラム

本学科はこれまでに、看護学・理学療法学・作業療法学の三専攻での共修科目として1年次から4年次まで段階的に5科目から成る統合ケア関連科目群を設け、チーム医療教育の充実を図ってきた（表2）。チーム医療実践教育プログラムでは、三専攻での共修科目の中に他学部（本学医学科・歯学部・薬学部）や他大学（長崎純心大学）との共修授業を設けることで、将来の多職種連携につながる医療・保健・福祉の視点を養い、チーム医療を実践できる人材養成の強化を図る取り組みを展開する（図1）。

表1. 「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」の教育目標と到達目標

教育目標	本プログラムは、保健学科三専攻及び他学部（医学科・歯学部・薬学部）との共修や演習を設けることで、多職種連携にかかる教育を推進し、また早期体験実習の導入や総合臨床実習前後の臨床教授等による講義、学内セミナーへの臨床実習指導者の参加などにより臨床実習教育を強化することを目的とする。このことにより、理学・作業療法士を目指す学生の職業的アイデンティティを形成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身が目指す医療専門職者（理学・作業療法士）の役割を理解できる。</li> <li>2. 理学・作業療法士として対象者及び実習指導者と適切なコミュニケーションや態度を取ることができる。</li> <li>3. 対象者を中心としたチーム医療の実際を理解できる。</li> <li>4. チーム医療を支える他医療専門職者（医師・看護師等）の役割を理解できる。</li> <li>5. 病気や障害を持った対象者の生活を理解し、生活課題に対するアセスメントができる。</li> <li>6. 理学療法・作業療法における評価－問題点抽出－プログラム立案－介入を通して効果検証やプログラムの妥当性について考察できる。</li> </ol>

表2. 長崎大学医学部保健学科三専攻での共修科目「統合ケア関連科目群」

科目名	対象学年	目的
入門科目	1年次生 (前期2日間)	入学後間もない時期に病院実習を体験し、クライアントの療養・生活環境とチーム医療の現状を知り、現代医療を支える医療専門職者の役割について考える。
医療と社会Ⅰ	2年次生 (後期)	「人の心の発達」「性と正」「高齢期を生きる」「医療人と患者及び家族との関係」の4つのテーマの講義、その後のフィールドワークによる体験を通して医療専門職者としての役割について考察する。
統合ケア論	3年次生 (前期)	外部講師と教員との模擬カンファレンスを通して、看護師・理学・作業療法士の役割を学び、チームアプローチを理解する。
統合ケア実習	4年次生 (前期4日間)	看護学・理学・作業療法学専攻の学生がグループで実習を行い、事例の生活障害を理解し、ケアマネジメントを実践する。
離島の暮らしと 保健医療	4年次生	長崎県における島嶼部の地域医療を理解し、連携のあり方を学ぶとともに統合ケア実習での事例について討論し、生活機能障害の理解と支援のあり方を考察する。

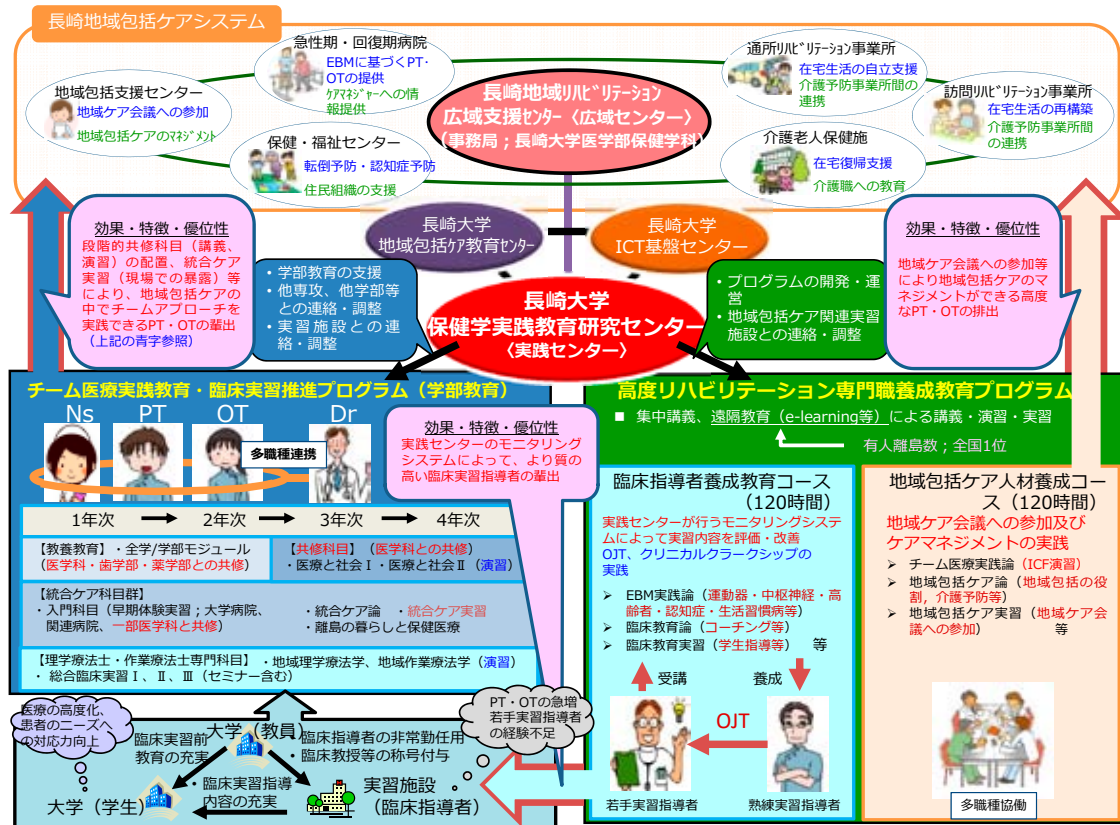


図1. 長崎大学「高度リハビリテーション専門職の養成－長崎地域包括ケアシステムを活用したプログラム」概要

2. 臨床実習推進プログラム

本学科理学・作業療法学専攻の実践教育における総合臨床実習は、実習終了後の学内セミナー等で学生の実習における学習到達度の評価と学生へのフィードバックを行ってきたが、実習前学習の強化が課題であった。本事業においても、医療の高度化や患者のニーズの多様化を踏まえた臨床実習前教育と臨床実習の充実、大学教員と実習指導者との連携強化のための取り組みが求められている<sup>3)</sup>。そこで、臨床実習推進プログラムでは、臨床教授等による実習前講義や臨床実習指導者の実習終了後学内セミナーへの参加などを実施することで臨床実習教育を強化するとともに、教員－臨床実習指導者－学生間の相互連携を図る取り組みを展開する(図1)。

IV. 進捗状況

1. チーム医療実践教育プログラム

平成27年度は、本学科三専攻での共修科目である「入門科目」、「医療と社会I」、「離島の暮らしと保健医療」の一部を他学部や他大学と実施した。

1年次生を対象とした「入門科目」を医学科と共修で行い、医療における診療の補助である血圧測定・超音波検査・心電図検査・車椅子操作・杖歩行などをグループで体験する取り組みを実施した。その結果、本学科1年次生106名を対象とした授業前後のアンケート結果では、「チームアプローチにおける他職種の役割を学ぶ必要性

がある」という問いに対し、「強くそう思う」と回答した学生は授業前62名(58.5%)であったが、授業後90名(84.9%)に増加していた(図2-a)。また、授業後では「学ぶ必要性がある職種」について記載した職種の数が増加しており(図2-b)、チーム医療の重要性を認識できている傾向が伺えた。2年次生を対象とした「医療と社会I」は、医学科と長崎純心大学現代福祉学科及び人間心理学科との共修で行い、退院後に生活支援が必要な事例や在宅生活が困難な事例等の模擬的な4事例の生活障害の評価及び支援内容についてグループ討論ならびに発表を行った(図3-a)。4年次生を対象とした「離島の暮らしと保健医療」は、医学科・歯学部・薬学部と共修で行い、退院前カンファレンスをロールプレイとして実施した。具体的には、3事例を模擬的に提示し、各事例の退院後の生活障害や医療的リスクを評価するとともに支援内容についてグループ討論ならびに発表を行った(図3-b)。

2. 臨床実習推進プログラム

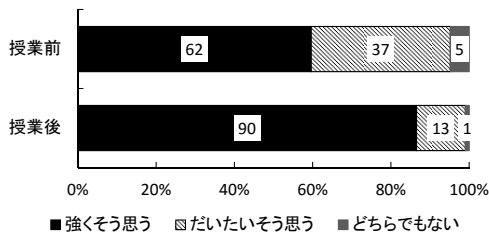
平成27年度は、理学・作業療法学専攻1・2年次生を対象に、早期体験実習(各学年ともに1週間)開始前に「臨床実習における接遇・コミュニケーションについて」というテーマで、臨床教授及び臨床講師による講義を行った(図4-a)。また、理学・作業療法学専攻3年次生を対象に、総合臨床実習開始前に「臨床実習における

活動報告

心構えと学習方法」というテーマで、臨床教授による講義を行った(図4-b)。さらに、総合臨床実習終了後の学内セミナーに参加した実習指導者は、総合臨床実習Ⅱ(7週間)では理学療法学専攻11名(18施設中9施設)と作業療法学専攻5名(17施設中5施設)で、総合臨床実習Ⅲ(7週間)では理学療法学専攻6名(18施設中4施設)と作業療法学専攻6名(17施設中5施設)であった(図4-c)。学内セミナーに参加した実習指導者

からは、「学内での指導内容を知る貴重な機会となった」「他施設の指導内容や取り組みは参考になった」等の良好なコメントが多く、教員側としても「臨床的な立場から建設的な意見をいただき、有意義な討論を展開できた」等の意見があった。しかし、理学・作業療法学専攻ともに学内セミナーに参加している実習施設が少ない現実もあり、今後はより多くの実習施設と相互連携を図るための取り組みの必要性が示唆された。

a. チームアプローチにおける他職種の役割を学ぶ必要性について



b. 学ぶ必要がある職種

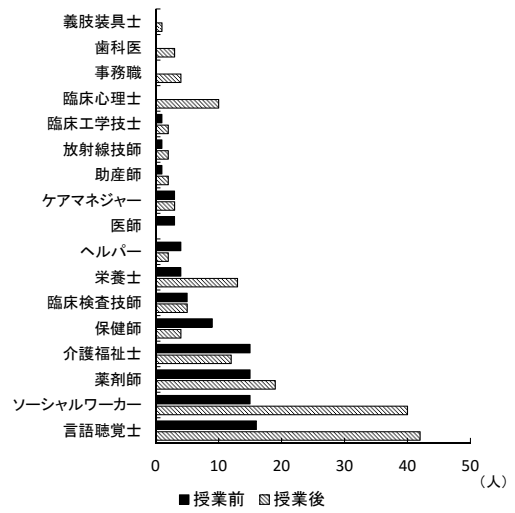


図2. 「入門科目」授業前後アンケートの結果

a. 「医療と社会Ⅰ」(2年次生)



b. 「離島の暮らしと保健医療」(4年次生)



図3. 「チーム医療実践教育プログラム」実施風景

a. 「早期体験実習前講義」(1・2年次生)



b. 「総合臨床実習前講義」(3年次生)



c. 「学内セミナー」(4年次生)



図4. 「臨床実習推進プログラム」実施風景

## V. まとめと今後の展望

本学科が展開しているプログラムの内、学部教育に対する「チーム医療実践教育・臨床実習推進プログラム」について紹介した。チーム医療実践教育プログラムに関しては、本学科がこれまで三専攻での共修科目として設けてきた統合ケア関連科目群の一部を、他学部や他大学と連携を取りながら展開することで、チーム医療の重要性を認識できている傾向が伺えている。今後も、実践センターを中心とした長崎大学地域包括ケア教育センター等との連携が重要であると考えられる。一方、臨床実習推進プログラムに関しては、臨床教授等による実習前講義や実習終了後の学内セミナーへの実習指導者の参加により、教員－臨床実習指導者－学生間の相互連携を図る取り組みを展開している。学内セミナーに参加した臨床実習指導者と教員からは良好な意見が聞かれているものの、相互連携を図れている実習施設は限られているのが現状である。本プログラムでは、質の高い臨床指導者を養成するリカレント教育プログラムも平成28年度より展開していく予定であり、今後は、このようなプログラムを受講する実習指導者と本学科が連携を深めていくことが必要であると考えられる。

本事業の学部教育プログラムでは、理学・作業療法士を目指す学生の職業的アイデンティティを形成することを教育目標としており、この点に着目したアウトカムを明確化し、プログラムの効果を検証していく必要がある。

## VI. 参考文献

- 1) 文部科学省：課題解決型高度医療人材養成プログラム。文部科学省, [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/iryuu/1346835.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1346835.htm) (平成28年2月16日アクセス)
- 2) 厚生労働省：チーム医療の推進等について。厚生労働省, [http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000028972.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000028972.pdf) (平成28年2月17日アクセス)
- 3) 文部科学省：課題解決型高度医療人材養成プログラム概要。文部科学省, [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/05/07/1346835\\_02\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/05/07/1346835_02_1.pdf) (平成28年2月17日アクセス)

Report on “Team-based medicine and clinical training education program”  
for establishment of professional identities among students of  
physical and occupational therapists.

Tatsuya HIRASE<sup>1</sup>, Fumiko ISO<sup>1</sup>, Minoru OKITA<sup>2</sup>, Toshio HIGASHI<sup>2</sup>  
Goro TANAKA<sup>2</sup>, Shigeru INOKUCHI<sup>1</sup>

- 1 Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences Health Science, Center for Practical Education of Health Sciences
- 2 Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences Health Science

Received 26 July 2016

Accepted 26 August 2016